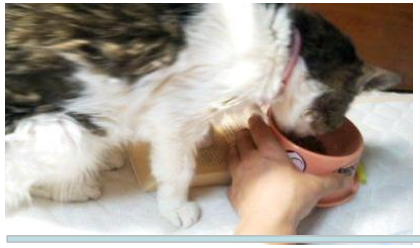
まる新聞

30号　2013年5月22日



㊧おかちゃんが読んでいる途中の「憲法を考える本」を左脚で踏み、ご飯を食べるまるこ。「やらせではありません」
㊨横長の写真でないとうまくレイアウトできないと諭され、変な写真を出すことにしぶしぶ同意したみけこ。「基本的猫権の侵害を許すなー」

日本は平和で安穏であってほしい。せめて命がある間。しかし、あと20年の間に、日本は随分と変わってしまう予感がします。

北朝鮮の「人工衛星」は、アメリカに方角を向けながら日本に落ちるのではないか？▽原発は、テロに襲われずに済むのだろうか？▽戦争を知る世代が回避してきた新たな戦争を、知らない世代が招いてしまうのではないだろうか？▽沖縄は、主権も持てずに毎日が戦時となってしまうのではないか？

ぐずぐず心配しているよりは、建設的な信頼醸成をしていったほうがいい。だけど、政府は「屈辱の日」に「主権回復の日」を祝い、橋下大阪市長は「慰安婦発言」、自民党からも維新の会からも「侵略否定発言」、そのうえ夏の参院選は改憲が争点だそうです。いまだに繰り返す歴史のちゃぶ台返し。なぜなんでしょう。

GWに読んだ赤坂真理の小説「東京プリズン」は、そんな疑問の渦にぽとりと落ちた雫のようでした。高橋哲哉の「犠牲のシステム　福島・沖縄」、井上ひさし選「憲法を考える本」を併せて読みました。

憲法は近くに置いて思うもの　わたしはあなた　あなたはわたし

1981年、16歳のマリが天皇の戦争責任を巡ってアメリカでディベートをする。「東京プリズン」の設定はかなり過酷です。「先行世代がやり残した宿題をたったひとりで解こうとする」と高橋源一郎は紹介しました。

自分の意見とは無関係に、論題の賛否どちらかの立場で議論を進めていく競技。これは、自分の意思とは無関係に価値観の一変した戦後社会に適応していかねばならなかった日本人の葛藤を表す比喩です。日本人は、戦争責任をうやむやにすることによって、責任を感じている者も否定する者もどちらもが、ディベート競技の敗者となり、煮え切らない思いを抱えてきました。時代に逆行する政治家の発言が相次ぐのは、そのつけなのでしょう。

衝撃だったのは、戦後日本を「娼婦」とする見立てです。精神的な価値観や人の尊厳よりもカネを選んできた社会を否定できないなら、こういう見方があって当然といえば当然です。が、男性作家が表現しようとすると非常に難しいでしょう。女性だからこそのとらえ方であり、自然な表現なのだと思います。誇りある国を娼婦扱いしてみせる、この切り口を橋下市長はどう捉えるでしょうか。

もうひとつ、この作品の特徴といえば、夢想を通した主体の変化。マリは、母にも天皇にもヘラジカにもベトナムの結合双生児にもなります。「わたし」は「あなた」なのです。夢想は、過去と現在の時空をとんでもなくワープします。これについていくのは、なかなかしんどい。

しかし、すべて読み終わったあとで、思うのです。「わたしはあなた」。これは日本国憲法の基本コンセプトだと。わたしがあなたの立場ででも物事を受け止められるから、基本的人権は尊重できる。他の国に不利益なことをしない先進的な憲法を持ち続けられるのです。

「犠牲のシステム　福島・沖縄」が教えてくれたのは、キリスト教における犠牲と戦争との結びつきでした。多くの犠牲者が出たとき、人々は物語をつくり、魂を救済し、乗り越えてきました。「平家物語」も、戦乱の世の鎮魂の仏教説話です。しかし、戦後の日本人はこれまで、物語をうまく形成できませんでした。

GHQが天皇制を残した、と高校で習ったとき私は、社会の安定のためには当然だ、と思いました。でも、今はそれが物語づくりに一番のネックだった、と想像します。天皇死刑、天皇家廃嫡、天皇制廃絶といった最大の犠牲を払わなかったから、古事記に次ぐ神話はできず、英霊たちは行き場所をなくしてしまったのだと思います。

しかし、例えば天皇制がなくなったら、日本人の魂は救済できたのでしょうか。きっとそれも違うでしょう。魂の救済は、亡くなった人のためにあるのではない、生き続けている人のためにあります。とするならば、未来のために「神話」は作られるものです。

憲法に「神話」の役割を担わせたい。私はそう思います。

「憲法を考える本」は1997年出版。護憲派の立場から、歴史や理念をやさしく解説しています。主権在民、基本的人権の普遍的価値を久しぶりに思い起こし、とても新鮮でした。憲法が驚くほど短いのは、「わたしはあなた」が基本だからでしょう。国内の我執よりも世界普遍の価値を優先する理想に依ってたっているから、不戦の誓いは「神話」にもなりうる。私はこの憲法を護りたい、と改めて思いました。英文を下手に訳した前文は、本音では分かりやすく改めたい。しかし、世界に誇れる理念を改悪されそうな今、文体の無骨さなど問題ではありません。

憲法を読みませんか。護憲派も改憲派も分からない人も。憲法の価値観を日本の精神的支柱とするかどうかの原点です。口先論議と世論調査だけを賛否の判断基準としてはなりません。

発行＝村田まるこ　maru5935@c-able.ne.jp